

外国語科・ 外国語活動

- 【4 学年】
What do you want?
～ほしいものは何かな?～
- 【5 学年】
Welcome to Japan.
～日本の四季や文化を紹介しよう～
- 【6 学年】
Let's go to Italy.
～おすすめの場所の魅力を紹介しよう～

外国語活動 学習指導案

単元名 Unit 7 What do you want? ～ほしいものは何かな?～

日 時 令和2年 11 月 12 日 (木曜日) 第3校時

指導者 HRT 山内 伸介 ALT Hannah Mead

場 所 4 年 1 組教室

学 級 第 4 学年 1 組 男子 22 名 女子 18 名 計 40 名

1 本単元の構想

【単元の目標】

学級の友達にオリジナルのパフェを作ってプレゼントするために、欲しい食材やその数を尋ねたり答えたりして伝え合う。

【本単元に関する学習指導要領の内容】

話すこと [やり取り] ウ	自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、質問に答えたりするようにする。
---------------------	--

【CAN-DO リストにおける位置付け】

自分のことや身の回りの物について、動作を交え、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり答えたりすることができる。

【単元観】

本単元は、児童が興味・関心をもつ身の回りの物を題材に、簡単な語句や What do you want?などの基本的な表現を用いて、やり取りをすることをねらいとしている。

既習である果物や野菜などを欲しい物として設定することで、2 往復以上のやり取りをさせるなどやり取りの楽しさを感じさせられる単元である。

また、プレゼントを用意したり、相手に合わせてやり取りをさせたりすることで、相手への配慮についても学ばせることができる単元である。

【児童観】

本学級の児童は、誰かに贈るためのカードづくりを学習しており、What do you want?の表現や How many?の表現については、経験している。しかし、その表現を使って2 往復以上のやり取りをすることについてはまだ経験していない。

外国語の学習では、よりよくやり取りをしようとしている児童の肯定値は 80%と多いが、実際の様子を見ると、はっきりとした声で自信をもって話すことができない児童も多く見られる。

【指導観】

本単元では、クラスの友だちにオリジナルパフェを作ってプレゼントすることを単元のゴールとする。友達とのつながりが強くなってきた 4 年生には、友達のために何かを考えてプレゼントすることで相手意識をもたせる。

オリジナルパフェづくりの活動において、児童はおいそうなパフェを作るためにはたくさんの果物が欲しいと考える。そこで、既習の How many?を思い出させることで、2 往復以上のやり取りをさせたい。やり取りの際には、相手を見たり、うなずいたりしながらやり取りをしている児童を評価することで、児童の表現力を高めていく。英語の音声に慣れさせるために、単元を通して、デジタル教科書を用い、映像、チャンツ、単語の発音を聞き取る機会を多くしていきたい。

英語の表現が定着しにくい児童には、個別に指導・助言を行い、自信をもって発話できるようにしていきたい。

2 言語材料

既習内容	What's this? It's (). Do you have (a pen)? Do you like ()? Yes, I do. No, I don't. 数(1～60)
表現	What do you want? I want (), please. How many? (Two), please. Here you are. Thank you.
主な語彙	果物, 野菜, 数など

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう態度
①果物や野菜などの食材について, What do you want?や～ please.などを用いて欲しいものを探ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいる。	①学級の友達にオリジナルパフェを作ってプレゼントするために, 相手に伝わるように工夫しながら, 食材や数について欲しいものを探ねたり答えたりして伝え合っている。	①学級の友達にオリジナルパフェを作ってプレゼントするために, 相手に伝わるように工夫しながら, 食材や数について欲しいものを探ねたり答えたりして伝え合おうとしている。

4 指導と評価の計画

時間	学習活動	評価規準(評価方法)		
		知・技	思・判・表	態度
1	食材の言い方や欲しいものを探ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。	○知① (行動観察, 振り返り)		
2	カレーについて紹介したり欲しいものを探ねたり答えたりして伝え合う。	○知① (振り返り)		○態① (行動観察, 振り返り)
3	フルーツパフェの食材について欲しいものを探ねたり答えたりして伝え合う。		○思① (行動観察, 振り返り)	○態① (行動観察, 振り返り)
4	相手に配慮しながら, 自分のオリジナルパフェを紹介しようとする。		○思① (行動観察, 振り返り)	○態① (ワークシート, 振り返り)

6 本時の目標

What do you want? や How many?という表現を使って欲しいものやその数を尋ねたり, I want ~.や Two ,please.という表現を使って答えたりしている。

7 本時の展開

学習 過程	主な学習活動と児童の反応(・) 教師の主な発問(○)	指導(・)支援(○) 主な教室英語		◎評価規準 (評価方法)
		HRT	ALT	
挨拶	1 歌を歌い, 挨拶をする。	Let's sing a song. Let's start our English class. Hello, everyone. How are you?		
導入	2 めあてを確認する。 Today's goal	・これまでの学習を振り返り, 課題意識をもたせる。	Ask the date, day, weather.	
	オリジナルパフェに必要なくだものを集めよう。			
練習	3 パフェづくりに使う材料の言い方を練習する。 チャンツをする。	・発音の難しい言葉に注意して練習させる。 ○Repeat after Ms.Hannah. ○Let's chant.	・繰り返しゆっくりと発音を聞かせる。 ・難しい言葉は, ゆっくりと聞かせる。	
展開	4 やり取りを行い, 材料を集める。 C1:What do you want? C2:I want a banana, please. C1:How many?. C2:Two please. C1:Here you are. C2:Thank you. ・もっと材料を集めたい。 ○いくつ欲しいか尋ねるには, どう言えばいいでしょうか。 ・How many?	・デモンストレーションを行う。 ・中間評価を行う。	・自信のない児童や発話にミスのある児童を探し, 個別に声掛けを行う ・できていることについては積極的に肯定的な評価をする。	◎思① (行動観察)
			ICT 目を合わせたり, 反応したりしている児童を撮影し, 良さを評価する。	
振り返り	5 本時の振り返りをする。	Let's reflect today's class. ・これまでと比べてできるようになったことや, さらに言いたいと感じたことについて振り返らせる。		◎思① (振り返り)
挨拶	6 挨拶をする。	Let's finish our English class. Thank you. See you.		

8 めざす児童の具体的な姿

相手に伝わるように工夫しながら、食材や数について欲しいものを尋ねたり答えたりして相手と伝え合っている。（思考・判断・表現①）

【概ね満足する状況】

- What do you want?という表現を使って、欲しいものを尋ねている。
- I want～.という表現を使って、自分の欲しいものを答えている。
- How many?と尋ねたり、Two, please. と答えたりしている。

【十分満足する状況】

- 概ね満足する状況に加え、相手に配慮して（うなずく、目を合わせる、反応する）やり取りをしている。

9 板書計画

Unit's goal	オリジナルパフェを作って、友達にプレゼントしよう。
○/○ Today's goal	オリジナルパフェに必要なくだものを集めよう。

How many?

What do you want?

I want bananas, please.

Here you are. / Sorry.

Thank you. / O.K.



絵カード(パフェの材料)

10 授業を振り返って

①本時の振り返り

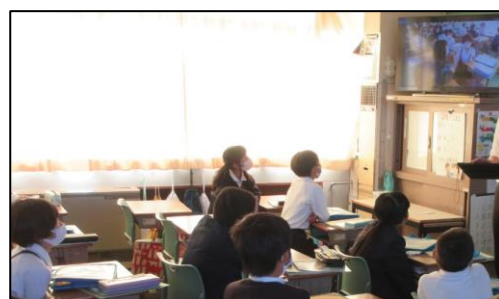
○本時では、フルーツパフェの材料をもらう活動において、相手に配慮してやり取りさせるために、タブレットを活用した。英語でやり取りしながら材料集めをしている様子をタブレットで撮影し、中間評価を行った。児童は、友達のやり取りの写真を見て、視線を合わせたり身を乗り出したりすることで、より気持ちよくコミュニケーションを図ることができると気付いた。中間評価後には、多くの児童が視線を合わせたり、うなずいたり、反応を返したりする姿が見られ効果的な活用であった。

○本時において、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を使って、相手を意識しながらやり取りをするという目標を達成できた児童は 80%いた。これらのことから、概ね授業のねらいは達成できたと考える。

- “How many?”, “Two bananas, please.”のように、数を尋ねる表現を言うことが難しい児童がいた。”How many? “という言葉にまだ十分慣れ親しんでいないことが原因であると考え。チャンツを増やすなど、もっと音声を聞く活動を増やすべきだった。



【図1】パフェ作りの材料を集める児童の様子



【図2】タブレットで友達のやり取りの良さを見つける児童の様子

②単元を振り返って

○相手に配慮しながらやり取りをすることが難しい児童が多かったので、カレーの材料を集める活動にもタブレットを取り入れた。友達のやり取りを見ることで、相手に配慮したやり取りの仕方を学び、少しずつではあるが、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童が増えた。

○単元末における評価では、友達にパフェを作ってプレゼントするために、欲しい材料やその数を尋ねたり答えたりすることができた児童は、98%であった。児童の振り返りでも、「数を尋ねたり、答えたりすることができた。」という記述が見られた。

- 2%の児童については、今後も個別に発音練習するなどの支援が必要である。児童の学習状況をきめ細かく把握することで指導の改善を図っていく。

	知・技	思・判・表	態
A 評価	25%	20%	45%
B 評価	73%	78%	53%
C 評価	2%	2%	2%

【表1】単元末における児童の評価の割合

外国語科 学習指導案

単元名 Unit 7 Welcome to Japan.～日本の四季や文化を紹介しよう～

日 時 令和2年11月26日（木） 第3校時

指導者 HRT 上杉 真美 ALT Hannah Mead

場 所 5-1教室, 5-2教室, 2-1教室, 2-2教室,

学 級 第5学年1組 男子14名 女子19名 計33名

1 本単元の構想

【単元の目標】

○日本の魅力を伝えるために、日本の四季や文化などについて、自分が好きな季節やその理由など、自分の考えや気持ちを含めて話すことができる。

【本単元に関する学習指導要領の内容】

話すこと
[発表]ウ

身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

【CAN-DO リストにおける位置付け】

前もって用意された内容であれば、自分や自分の学校のこと等身近でなじみのある話題について、プレゼンテーション等を行うことができる。

【単元観】

本単元は、作成した「日本の四季カード」をもとに、好きな季節やその理由（行事など）、季節の中でどんなことを行うかについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて表現することをねらいとしている。これまで学習してきた表現の工夫に加え、国語科などで学習してきた話し方を活用しようとする中で、よりよく相手に伝えることについて学ぶことができる。また、学習を通して、日本についてさまざまな視点（食べ物、年中行事、遊びなど）から見直すことで、日本の四季や文化のすばらしさを再発見することができる単元である。

【児童観】

本学級の児童は、第1学年から外国語活動に慣れ親しんできている。6月に実施した意識調査では、外国語科における興味ある活動について、「英語で他者と会話すること」を92%の児童が回答しているのに対して、「英語で自分の思いや考えを表現すること」が52%の回答に留まる結果が出た。その一方で、「英語が使えるようになりたい」と答えている児童は89%と多くいた。これらのことから、本学級には、自分の考えや思いを伝える表現の技能等を十分身に付けることができておらず、英語で表現することに自信がない児童がいると考えられる。

【指導観】

指導にあたっては、来日するALTの友人に「日本のすてき」を紹介するVTRを作成することを単元のゴールとして設定し、紹介するときの表現や語句等を児童の必要感に合わせて選ぶようにする。

語句の理解や表現の技能については、これまで同様、音声での慣れ親しみを十分に行うことを大切にしたい。チャンツや簡易なゲームを適切に位置づけ、児童が自然に言葉として発することができるよう繰り返して発音したり聞いたりする時間を確保するようにする。また、随時単元で目指す姿をイメージさせながら、タブレットを活用して自分の話す姿を動画撮影させ、自分たちの学習状況を確認させるとともに、よりよい表現に高めようとする態度を養いたい。

2 言語材料

既習内容	I can - (see / go / eat / enjoy) . Do you like -? Thank you . 季節(spring / summer / fall / winter) 様子(good / nice / delicious / wonderful)
表現	We have - in ... I usually -.
主な語彙	年中行事(New Year's Day / Doll's Festival/ Star Festival など) 遊び(kite flying / top spinning / cards など) 様子(exciting / interesting など)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう態度
① I/We have - . I/We usually - .など好きな季節やその理由を表す表現について理解している。 ② 日本の四季や文化について、簡単な語句や I/We have - . I/We usually - . などを用いて、自分の考えや気持ちなどを伝える技能を身に付けている。	① 自分の好きな季節や文化について伝えるために、魅力が伝わるように、その理由などについて、自分の考えや気持ちを含めて伝えている。	① 日本の四季や文化に対する理解を深め、主体的に英語を用いて話そうとしている。 ② 日本の魅力を知ってもらうために、自分の好きな季節や文化などについて自分の考えや気持ちを含めて話そうとしている。

4 指導と評価の計画

時間	学習活動	評価規準（評価方法） ・指導に生かす評価 ○記録に残す評価		
		知・技	思・判・表	態度
1	単元末のゴールを設定し、課題をつかむ。 既習の表現を使って好きな季節や年中行事について聞いたり、言ったりする。	・知① (行動観察)		
2 3	日本の年中行事についてまとめた英語を聞き、その中で自分の好きな年中行事や遊びやその理由について聞いたり、言ったりする。	・知① (行動観察、WS分析)		・態① (行動観察・WS分析・振り返り分析)
4	その季節に行われる行事などについて、自分の考えや気持ちを含めて伝える言い方を知る。 簡単な語句や表現を選び、4線の上に書き写す。	・知② (行動観察、WS分析)		・態② (行動観察・WS分析・振り返り分析)
5	発表用カードを作成するとともに、それらを用いて自分の好きな季節とその理由、その季節に行われる行事などについて伝える言い方を知る。		・思① (行動観察)	○態① (行動観察・カード・振り返り分析)
6	自分の好きな季節とその理由、その季節に行われる行事などについて、自分の考えや気持ちを含めて伝える言い方に慣れる。	○知①② (行動観察・WS分析)		
7	自分の好きな季節とその理由、その季節に行われる行事などについて、自分の考えや気持ちを含めて、相手によりよく伝えられるよう表現を工夫する。		○思① (行動観察・動画分析)	

8 9	自分の好きな季節とその理由、その季節に行われる行事などについて、自分の考えや気持ちを含めて紹介する動画を作成する。		○思① (行動観察・動画分析)	○態② (行動観察・カード・振り返り分析)
10	活動を振り返るとともに、学習内容の定着を確認する。	○知①② (ペーパーテスト)		

5 単元末パフォーマンステスト

(パフォーマンス課題)

自分の好きな季節とその理由、その季節に行われる行事などについて、カードを活用しながら考えや気持ちを含めて紹介する動画を作成する。

(評価規準)

相手に好きな季節やその季節に行われる行事などの魅力が伝わるよう工夫しながら、カードを活用し、考えや気持ちを含めて話している。【話すこと[発表]】

	観点	A (十分満足)	B (概ね満足)	C (努力を要する)
実際の児童の姿	言語	・Bの様子に加え、Do you like～?やDo you know～?という表現を活用したり、伝えたい内容を強調したりゆっくりしたりして話している。	・相手に自分の好きな季節やその季節に行われる行事などについて知ってもらうために、その理由などについて、自分の考えや気持ちを含めて話している。	・自分の好きな季節やその季節に行われる行事などを紹介することができない。 ・自分の考えや気持ちを含めて話すことができない。
	非言語	・聞き手を意識して間を開けたり声のトーンを変えたりしている。	・資料を指で示したり、提示の仕方を工夫したりしする等、相手にわかりやすいよう工夫を加えて話している。	・相手(カメラ)に視線を向けながら発表していない。
発話例	Hello. I like (winter). Do you like (winter)? We have (setsubun) in winter. Do you know (setsubun)? I usually throw beans. It's fun. Thank you .			

6 本時の目標

自分の好きな季節とその理由、その季節に行われる行事などについて、自分の考えや気持ちを含めて、相手によりよく伝えられるよう表現を工夫することができる。（思①）

7 本時の展開

学習過程	主な学習活動と児童の反応(・) 教師の主な発問(○)	指導(・)支援(○) 主な教室英語		◎評価規準 (評価方法)
		HRT	ALT	
挨拶	1 挨拶をし、歌を歌う。	Let's start our English class. Hello, everyone. How are you? Let's sing a song.		
導入	2 Small Talk をする。 What do you enjoy in winter?	・デモンストレーションを見せる。 ○既習表現やジェスチャーを活用し、会話の概要をイメージさせることができるようにする。 ・机間指導を行う。表現の工夫について評価し、本時の学習につなげる。		
	3 めあてを確認する。 Today's goal	・本時の位置付けを確認させ、課題をもたせる。		
	相手によりよく伝えられるよう表現の仕方を工夫しよう。			
練習	4 基本的な表現や語句についてチャ ンツで練習する。		・ゆっくりと発音を聞かせる。	
展開 1	5 相手によりよく伝えられるような表現の工夫について考える。 ○どんなふうに言えば、相手によりよく自分の思いが伝わるでしょうか。 ・相手に問いかける。 ・相手に呼びかける。 ・間をとる。 ・強調する。 ・ゆっくり話す。	・相手や目的を意識した表現の工夫について考えさせる。		
	6 動画を撮影する。また、撮影した動画を見て、学習状況を確認するとともに、改善点を捉える。	・代表の児童を選び、全体の場で中間評価をすることで、表現の工夫をすることの良さについて考えさせる。	・発表を聞いて回る。様子を見ながら、不正確なものについては、言い直しをすることで指導を行う。	
ICT 動画撮影を行い、自分の発表を客観的に捉えさせる。				

展開2	7 中間評価を生かして、自分の発表をさらに改善する。	相手の反応を確かめながら話したり、問いかけをしたりしている児童を積極的に評価する。	○自信のない児童や発話にミスのある児童を探し、個別に声掛けを行う。	◎思① (行動観察)
振り返り	8 本時の振り返りをする。	Let's reflect today's class. ・これまでと比べてできるようになったことや、さらに言いたいと感じたことについて振り返らせる。		
挨拶	9 挨拶をする。	Let's finish our English class. Thank you. See you.		

8 めざす児童の具体的な姿

相手に応じて、好きな季節やその理由、その季節に行われる行事などについて、自分の考えや気持ちを含めて話している。(思・判・表①)

【概ね満足する状況】

- 既習の表現を活用して、好きな季節やその理由、その季節に行われる行事の魅力を自分の考えや気持ちを含めて話している。
- 資料を指し示したり、提示の仕方を工夫したりしながら、話している。

【十分満足する状況】

- 相手に呼びかけたり問いかけたりする表現を活用しながら話している。
- 伝えたい内容をゆっくりと話したり声のトーンを変えたりして強調したり、間をとったりしながら、相手や目的を意識して話している。

9 板書計画

Unit's goal	日本の四季や文化を紹介しよう！		
○/○ Today's goal	相手によりよく伝えられるよう 表現の仕方を工夫しよう。		

We have

in winter.

I usually

年中行事

すること

相手に伝える工夫

- ・資料の活用をする。
- ◎相手に問いかける。
- ◎相手に呼びかける。
- ◎伝えたいことを強調する。
- ◎間をとる。

10 授業を振り返って

①本時の振り返り

- 本時では、自分のスピーチを録画し、よりよく伝える工夫ができているか確認したり改善したりするという目的でタブレットを活用した。スピーチを何度も録画して工夫ができているかどうかを自己評価する姿や、前のスピーチと比較して自信を高めている姿が見られるなど、効果的な活用であった。
- 相手に伝える工夫を「問いかけ」「呼びかけ」「強調」「速さ」「間の取り方」と明確に提示することで、児童に目指す姿を具体的にイメージさせることができた。また、中間評価を入れることで、スピーチの質を高めさせるとともに、指導と評価を一体化させることができた。
- 本時において、前回のスピーチより表現の工夫ができ、目標を達成した児童は94%いた。これらのことから、概ね授業のねらいは達成できたと考える。
- 紹介する季節ごとに教室を分けて活動させた。声が他の児童のスピーチの声と重なることなく録画することができたが、個への指導が難しかったり、友達同士のアドバイスがしにくかったりした面があった。2～3人のグループで評価し合ったり活動させたりする場を設けてもよかったと思う。



【図1】自分のスピーチを確認する児童の様子



【図2】目指す姿を共有する児童の様子

②単元を振り返って

- 授業後に振り返りを書かせ、そこから次時の学習のめあての設定を行った。課題を発見し、解決・実行していくことで意欲的に学習に取り組ませることができた。また、タブレットの活用によって相手意識をもたせることができ、直接交流が難しい場面においても表現の必然性が増した。
- 単元末におけるパフォーマンス評価では、表現を工夫しながらカードを活用し、おすすめの手紙や年中行事とその理由、気持ちや考えを話すことができた児童が97%であった。児童の振り返りでも、「間をとることを意識したこと」で、より分かりやすく伝えることができた。」という表現力の高まりについての記述が見られた。
- 3%の児童については、今後も表現の工夫のポイントを意識できるような声かけや他教科（国語科のスピーチや音読）との関連を図るなどの支援が必要である。

1	10/29	おすめの手紙を書きよ	①日本の行事のそれぞれの特徴や良い所を、季節のおすめを伝えることができた。
2	11/4	行事のよさを伝えることができた。	②日本の行事はみんなが知っている。③おすめを伝えることができた。
3	11/5	おすめの手紙を書きよ	④おすめを伝えることができた。
4	11/11	おすめの手紙を書きよ	⑤おすめを伝えることができた。
5	11/12	おすめの手紙を書きよ	⑥おすめを伝えることができた。
6	11/18	おすめの手紙を書きよ	⑦おすめを伝えることができた。
7	11/19	おすめの手紙を書きよ	⑧おすめを伝えることができた。

【図3】授業後に書いた振り返りの記述

	知・技	思・判・表	態
A 評価	94%	51%	85%
B 評価	6%	46%	9%
C 評価	0%	3%	6%

【表1】単元末における児童の評価の割合

外国語科 学習指導案

単元名 Unit 3 Let's go to Italy.～おすすめの場所の魅力を紹介しよう～

日 時 令和2年10月1日（木） 第3校時

指導者 HRT 瀧本 耕平 ALT Hannah Mead

場 所 1階 会議室

学 級 第6学年1組 男子15名 女子16名 計31名

1 本単元の構想

【単元の目標】

○自分のおすすめの国や地域の魅力を伝えるために、行ってみたい国や地域とその理由について、聞いたり自分の考えや気持ちを含めて話したりすることができる。

【本単元に関する学習指導要領の内容】

話すこと [発表]ウ	身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
---------------	---

【CAN-DO リストにおける位置付け】

前もって用意された内容であれば、自分や自分の学校のこと等身近でなじみのある話題について、プレゼンテーション等を行うことができる。

【単元観】

本単元は、世界の有名な建物や食べ物など様々な情報について学び、自分の行ってみたい国や地域について伝え合うことを狙いとしている。学習を通して、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語の学習そのものへの関心・意欲を高めることができる単元である。言語活動としては、話すこと[発表]を重点的に行う。国語などで学習してきた、話し方やこれまで学習した語・表現を活用しようとさせることで、よりよく相手に伝えることについて学ぶことができる。

【児童観】

本学級の児童は、第1学年から外国語活動に慣れ親しんできている。6月に実施したアンケートでは93%の児童が「英語が使えるようになりたい。」と答えている。一方で外国語の学習が「よく分かる。」、「好きだ。」という質問に否定的な回答をした児童が15%程度おり、外国語の学習に難しさを感じている児童もいる。主な理由として、扱う語や表現の量が増え、「覚えること」が増えたと感じていることが挙げられる。この数値は、「外国の人と友達になったり、外国のこと(物・人・文化など)についてもっと知りたいしてみたい。」という質問への否定的な回答の数値と同様である。

【指導観】

指導にあたっては、写真や動画などの資料を多く使い、外国の文化(スポーツ・食・音楽・歴史など)そのものへの興味・関心を高められるようにする。単元末には、自分が調べた、行ってみたい国についてポスターを活用しながら発表し合う活動を行う。ポスターを指し示しながら分かりやすく話したり、聞き手に目線を向け、理解を確認しながら話したりすることで、一方的な発表にならないようにさせる。また、既習の語や表現を活用することで、その場で質問したり答えたりするなど、簡単なやり取りをしながら相手に応じた発表になるよう意識させたい。

よりよく表現させるためには、発表に使う語や表現を覚えるのではなく、使えるようにさせる必要がある。そこで、英語で話すことに苦手意識のある児童への支援として、タブレットを活用し、個別に語や表現を繰り返し聞いたり、発表しない内容を選択したりできるようにする。さらに、自分の話す姿を動画撮影によって客観的に捉え直すことで、よりよい表現に高めようとする態度を養いたい。

2 言語材料

既習内容	You can (see / go / eat / buy / enjoy). It's -. I want to go to -. Do you like -? 食べ物(rice / pizza / chocolate / sausage), スポーツ 様子(good / nice / delicious / wonderful / exciting / interesting)
表現	Do you know -? Thank you for listening.
主な語彙	国(the U.S. / the U.K. / Egypt / Russia / Germany / Italy など) 食べ物() World Heritage(pyramid / Colosseum / Taj Mahal など)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう態度
①I/We want to go-. You/I can-.など行ってみたい国や地域, その理由を表す表現やその尋ね方, 答え方について理解している。 ②I/We want to go-. You/I can-.など行ってみたい国や地域, その理由を表す表現を用いて, 自分の考えや気持ちを含めて話す技能を身に付けている。	①相手に自分の行ってみたい国や地域の魅力を知ってもらうために, 相手に応じて, その理由などについて, 自分の考えや気持ちを含めて伝えている。	①外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 主体的に英語を用いて話そうとしている。 ②相手に自分が行ってみたい国や地域の魅力を知ってもらうために, 自分の行ってみたい国や地域の有名なものや文化などについて自分の考えや気持ちを含めて話そうとしている。

4 指導と評価の計画

時間	学習活動	評価規準 (評価方法)		
		・指導に生かす評価 ○記録に残す評価		
		知・技	思・判・表	態度
1	単元末のゴールを設定し, 課題をつかむ。 既習の表現を使って行ってみたい国や地域について聞いたり, 言ったりする。	・知① (行動観察)		
2 3	世界の有名な建物や食べ物などについてのまとまった英語を聞き, 自分の行ってみたい国や地域, その理由について聞いたり, 言ったりする。	・知① (行動観察, WS 分析)		・態① (行動観察・WS 分析・振り返り分析)
4	自分の行ってみたい国や地域とその理由について, 自分の考えや気持ちを含めて伝える言い方を知り, 互いに尋ねたり, 答えたりする。 簡単な語句や表現を選び, 4 線の上に書き写す。	・知② (行動観察, WS 分析)		・態② (行動観察・WS 分析・振り返り分析)
5	発表用ポスターを作成するとともに, それらを用いて自分の行ってみたい国や地域とその理由について, 伝える。		・思① (行動観察)	○態① (行動観察・ポスター・振り返り分析)
6	相手に応じて, 自分が行ってみたい国や地域やその理由などについて, 自分の考えや気持ちを含めて伝える。		○思① (行動観察・動画分析)	

7 8	これまでの学習を活用し、自分たちが住む地域でおすすめの場所について、ポスターを活用しながら聞いたり、言ったりする。	○知①② (行動観察・動画分析)		
9	自分たちが住む地域でおすすめの場所について、ポスターを活用しながら考えや気持ちを含めて紹介用の動画を作成する。		○思① (行動観察・動画分析)	○態② (行動観察・ポスター・振り返り分析)
10	活動を振り返るとともに、学習内容の定着を確認する。	○知①② (ペーパーテスト)		

5 単元末パフォーマンステスト

(パフォーマンス課題)

自分たちが住む地域でおすすめの場所について、ポスターを活用しながら考えや気持ちを含めて紹介用の動画を作成する。

(評価規準)

相手におすすめの場所の魅力が伝わるよう工夫しながら、ポスターを活用し、考えや気持ちを含めて伝えている。【話すこと[発表]】

	観点	A (十分満足)	B (概ね満足)	C (努力を要する)
実際の児童の姿	言語	・Bの様子に加え、Do you know～?という表現を活用したり、伝えたい内容をゆっくりと強調したりして話している。	・相手に自分の行ってみたい国や地域の魅力を知ってもらうために、相手に応じて、その理由などについて、自分の考えや気持ちを含めて話している。	・自分の行ってみたい国や地域を紹介することができない。 ・自分の考えや気持ちを含めて話すことができない。
	非言語	・聞き手を意識して間を開けたり、提示の仕方を工夫したりしている。	・資料を見せたり、指で示したりする等、相手にわかりやすいよう工夫を加えて話している。	・相手(カメラ)に視線を向けながら発表していない。
発話例	Hello. This is my recommend, (地域の名前). Do you like -? You can (see / go / eat / buy / enjoy). It's -. Please come and enjoy it. Thank you.			

6 本時の目標

相手に応じて、自分が行ってみたい国や地域やその理由などについて、自分の考えや気持ちを含めて伝えることができる。（思①）

7 本時の展開

学習過程	主な学習活動と児童の反応(・) 教師の主な発問(○)	指導(・)支援(○) 主な教室英語		◎評価規準 (評価方法)
		HRT	ALT	
挨拶	1 歌を歌い、挨拶をする。	Let's sing a song. Let's start our English class. Hello, everyone. How are you?		
導入	2 Small Talk をする。 Do you like -?	・ 机間指導を行う。既習表現を使わせ、発表の際の即興的なやり取りにつなげる。		
	3 めあてを確認する。 Today's goal	・ 本時の位置付けを確認させ、課題をもたせる。	Ask the date, day, weather.	
	聞き手に合わせて紹介する場所の魅力を紹介しよう。			
練習	4 伝えたいことについて考え、言い方をチャンツで練習する。	・ 国名の復習をさせ、友達の発表理解につなげる。	・ 繰り返しゆっくりと発音を聞かせる。	
	5 タブレットを活用して個別に練習する。	○個別に発音の練習を繰り返させる。	ICT パワーポイントを活用して音声を繰り返し聴かせたり、文章の構成を考えたりさせる。	
展開 1	6 互いに発表し合う。	・ 2人1組で発表させ、その様子をタブレットで自分で撮影させる。	・ 発表を聞いて回る。様子を見ながらその場で内容に応じた質問をする。不正確なものについては、言い直しをすることで指導を行う。	
	7 撮影した動画を見て、課題・改善点を捉える。 ○どんなふうに言えば、相手によりよく自分の思いが伝わるでしょうか。 ・ 相手に問いかける。 ・ 資料の活用をする。 ・ 言い方や見せ方を工夫する。	・ 自分の考えを個別に考え、口に出させる。日本語で思考させ、より良い発表にするための手立てを考えさせる。 ・ 代表の児童を選び、全体で見て、良さについて考える。	ICT 動画撮影を行い、自分の発表を客観的に捉えさせる。	

展開2	8 振り返ったことを生かして自分の発表を改善する。	- 資料を活用して話していたり、相手の反応を確かめながら話したりしている児童を積極的に評価する。 ○タブレットを用意し、自信がない児童が活用できるようにする。	○自信のない児童や発話にミスのある児童を探し、個別に声掛けを行う。 • できていることについては積極的に肯定的な評価をする。	◎思① (行動観察)
振り返り	7 本時の振り返りをする。	Let's reflect today's class. これまでと比べてできるようになったことや、さらに言いたいと感じたことについて振り返らせる。		
挨拶	8 挨拶をする。	Let's finish our English class. Thank you. See you.		

8 めざす児童の具体的な姿

相手に応じて、その理由などについて、自分の考えや気持ちを含めて伝えている。

(思・判・表①)

【概ね満足する状況】

- 相手に呼びかける表現を活用したり、資料を指し示したりしながら、伝えている。
- 既習の表現を活用して、行ってみたい国や地域の魅力を自分の考えや気持ちを含め伝えている。

【十分満足する状況】

- 相手の理解を確かめながら伝えている。
- 一方的な発表ではなく、問いかけ、その答えに反応する等、双方向のやり取りをしながら伝えている。

9 板書計画

Unit's goal	おすすめの場所の魅力を紹介し合おう。		
Today's goal	聞き手に合わせて紹介する場所の魅力を紹介しよう。		

○/○

We'll introduce

国旗



We can go to



see



enjoy



eat



buy

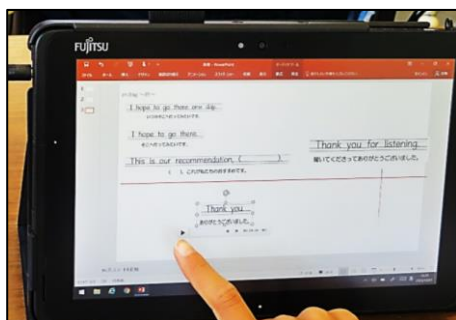
相手に伝える工夫

- 相手に問いかける。
- 資料の活用をする。
- 言い方や見せ方を工夫する。

10 授業を振り返って

①本時の振り返り

- 本時では、互いの姿を撮影し、自己の表現を客観的に捉えるため、また音声を録音したパワーポイントを活用して、ALTの発音を必要に応じて繰り返し聞くために児童がタブレットを活用した。表現をしている自分の姿を捉え、改善につなげたり、自信を付けるために自分のペースで繰り返し音声を聞いたりする児童の姿が見られた。
- 中間評価において、個別に撮影した動画を全体に見せ、よりよい表現について考えさせた。話す声の大きさ、資料の提示方法など言語面、非言語面どちらにおいても友達の姿から学ぶことで、表現を工夫し、高めていく姿が見られた。
- 本時において、目標を達成できた児童は96.8%いた。練習時間の設定が十分ではなく、自分たちの発表を何度も見直して改善することが十分できたとは言えないが、概ね授業のねらいは達成できたと考える。
- 「相手に応じた表現の工夫」が何を指すのか絞りきれず、グループごとに個別の課題を設定した形になってしまった。ゴールの姿をより具体的にイメージし、焦点化することで児童と共有することができ、指導しやすくなると考える。



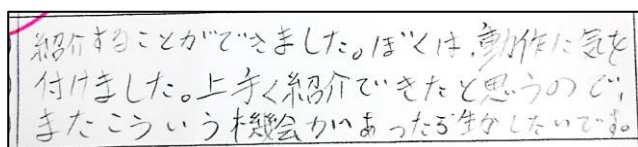
【図1】個別で活用した音声データ



【図2】発表を撮影し合う児童の様子

②単元を振り返って

- 本単元において、外国の様子を動画や写真を活用してできるだけたくさん児童に提示した。視覚的な教材の活用によって、行ったことのない国の様子を身近に感じることができ、外国に行ってみたいと振り返りに書く児童も多かった。
- 単元末における評価では、100%の児童が分かりやすくなるよう工夫を加えながら発表することができた。
- 発表後、簡単なやり取りをさせる等、単元の計画が発表とやり取りのどちらも行うものになっていた。活動を絞り、相手・場面・目的をより具体的に指導することで、表現が難しい児童の支援も充実させることができると考える。



【図3】単元末の児童の振り返り

	知・技	思・判・表	態
A 評価	45%	26%	26%
B 評価	55%	73%	74%
C 評価	0%	1%	0%

【表1】単元末における児童の評価の割合

